

2017年1月31日

経済レポート

2016年12月の鉱工業生産指数の結果

～12月の鉱工業生産指数は前月比+0.5%の上昇～

調査部 主任研究員 中田一良

12月の鉱工業生産指数の結果

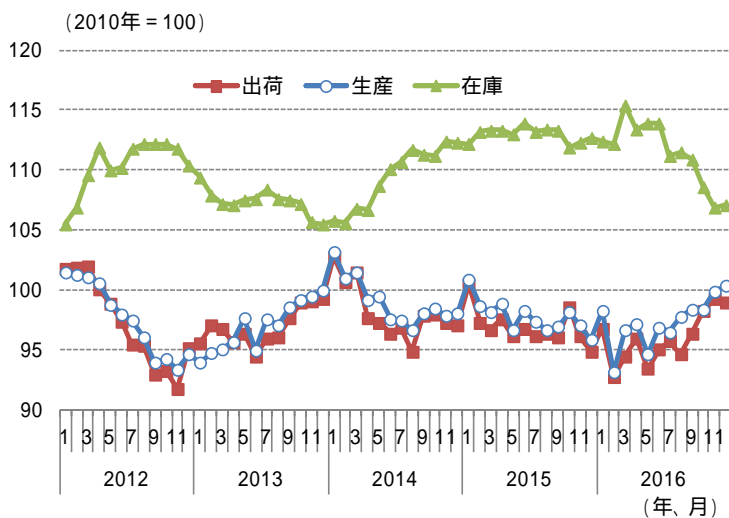
12月の鉱工業生産指数は、前月比+0.5%と上昇が続き、持ち直している(図表1)。出荷指数は、前月比-0.3%と4か月ぶりに低下した。在庫指数は前月比+0.2%と4か月ぶりに上昇した。

12月の生産指数の動向を業種別にみると、情報通信機械工業とはん用・生産用・業務用機械工業は低下したものの、輸送機械工業、化学工業(除く医薬品)、電子部品・デバイス工業、電気機械工業などが上昇した(図表2)。輸送機械工業では自動車部品、軽自動車など、電子部品・デバイス工業ではスマートフォン向けの部品などが生産指数全体の上昇に寄与した。

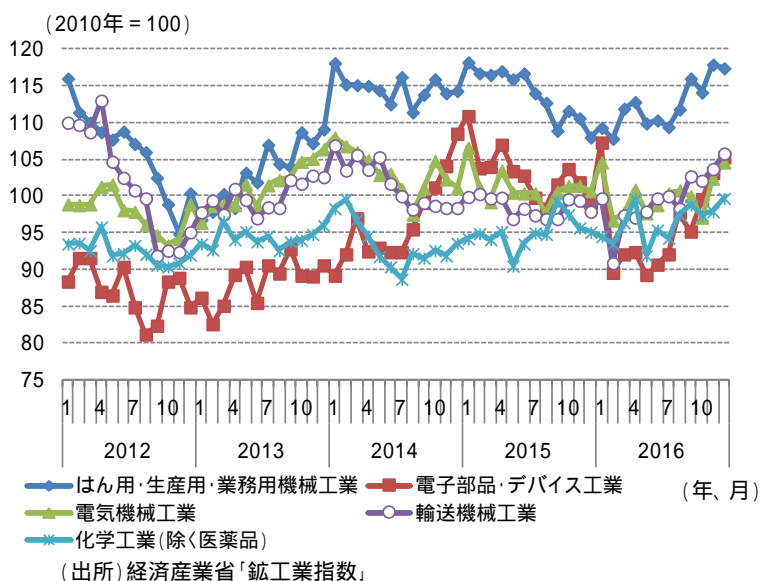
財別では、資本財(除く輸送機械)は前月比-1.7%と低下し、非耐久消費財は横ばいだったが、生産財は同+1.3%、耐久消費財は同+0.8%、建設財は前月比+0.5%とそれぞれ上昇した。

なお、10～12月期の生産指数は前期比+2.0%と、2014年1～3月期(同+2.3%)以来の高い伸びとなり、3四半期連続で上昇した。3四半期連続での上昇は、2013年1～3月期から2014年1～3月期までの5四半期連続での上昇以来のことである。

図表1 生産・出荷・在庫の推移



図表2 業種別の生産動向



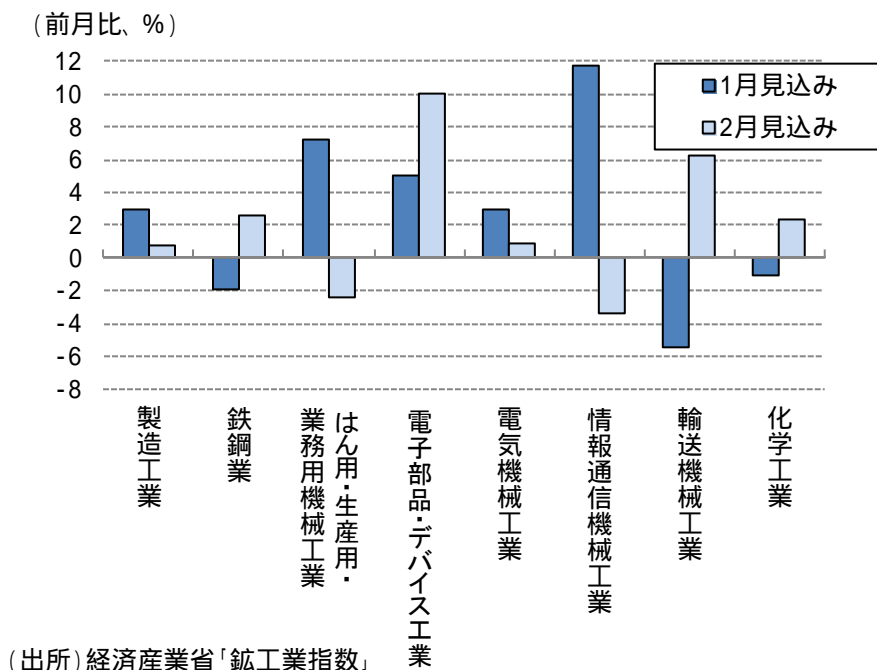
今後の見通し～製造工業生産予測調査の結果

1月の製造工業生産予測調査によると、製造工業は、1月は前月比+3.0%、2月は同+0.8%と上昇が続く見込みとなっている(図表3)。

業種別にみると、1月は、はん用・生産用・業務用機械工業、電子部品・デバイス工業、情報通信機械工業、電気機械工業などは上昇する一方、輸送機械工業、化学工業、鉄鋼業などは低下する見込みとなっている。中でも、はん用・生産用・業務用機械工業、情報通信機械工業は高い伸びが見込まれている。2月は、電子部品・デバイス工業は上昇が続くほか、1月に低下が見込まれている輸送機械工業、化学工業は上昇する見込みとなっている。他方、1月に高い伸びが見込まれているはん用・生産用・業務用機械工業、情報通信機械工業では低下する見込みとなっている。

はん用・生産用・業務用機械工業、電気機械工業、情報通信機械工業などの実績は予測を下回る傾向がみられることから、1月の製造工業全体の上昇率は、予測調査の結果を下回ると予想される。

図表3 製造工業生産予測調査による見込み(主な業種)



ご利用に際して -

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要です。当社までご連絡ください。